

國學院大學 国際招聘研究

報告書

國學院大學での経験は、学術的にとても実り多く革新的なものでした。研究協力者であり友人でもある岡本源太教授の学部生および大学院生向けの講義に参加する機会を得ました。ヨーロッパ在住の研究者には入手困難な、または閲覧が非常に難しい貴重な書籍や写本資料にアクセスできました。多くの日本の研究者と交流し、東京大学文学部イタリア語イタリア文学研究室での招待講演もおこないました。執筆に専念できる時間と豊富な資料は、私の研究成果にとってたいへん有意義なものでした。新著の推敲に加え、2本の出版物（学術論文1本と学術誌の特集号編集）を準備し、いずれも数週間以内に刊行予定です。

1) 利用可能な設備

國學院大學の渋谷キャンパス内にある国際交流センターの一室を滞在場所として提供していただきました。研究資料が保管されている場所にも簡単にアクセスできる便利な立地でした。到着後すぐに大学図書館と研究協力者の研究室があるフロアに入るためのカードを用意していただきました。図書館は期待をはるかに超えるものでした。例えば芳賀矢一に関する資料は当然期待していましたが、その学際的なコレクションの幅広さに感銘を受けました。専門的なテーマを扱った日本の最新著作ばかりでなく、レミ・ド・グールモンの『愛の物理学』など、ポルトガルでは入手困難なヨーロッパの稀覯書も所蔵されていました。

2) 教員と教育経験

岡本源太教授の学部生・大学院生向け講義に参加しました。特に、ミシェル・フーコーの『言葉と物』を講読する大学院の講義は、双方向的な授業であり、私自身も指導に関与しました。岡本教授の指導のもとで難解なテキストの要点を捉えようとする学生たちの努力を手助けすることができました。

3) 研究活動

國學院大學では、近代日本におけるマキャヴェッリとリアルポリティーク（現実政治）の解釈を探る研究計画に取り組みました。これに類する研究計画には、以前 EU マリー・キュリー・フェローシップで取り組み、ERC 助成金にも応募したことがありますが、今回あらためて根本的に立て直しました。諸事情により中断していたこ

の研究を遂行する時間と手段を、國學院大學が提供してくれたことに感謝いたします。2025 年 1 月 22 日の研究計画発表会と 2025 年 4 月 9 日の研究成果発表会では、政治リアリズムの概念が日本で受容される過程を再考しました。今回の調査研究は、マキャヴェッリの日本における受容史を新たな文脈で再構成する助けとなりました。特に、羽仁五郎がこのイタリアの思想家に捧げた多くのテキストを分析できたことは貴重でした。また、アメリカ人共同研究者から提供された CIA 文書の正確性を国立国会図書館所蔵の資料と照合して確かめ、東京にある羽仁の墓所も訪れて新著のための写真を撮影しました。ほかにも日本近代文学館（駒場）や神奈川近代文学館を訪問しました。

4) 講演と今後の出版

このたびの國學院大學の招聘により、長年温めていた著作や論文の執筆を開始したり、完了したりできました。まずは、慶應義塾大学の小熊英二教授や東京大学の石川健治教授と連絡を取り、彼らの協力を得て編集中の『Global Intellectual History』特集号の寄稿者を確定しました（ケンブリッジ大学のラース・ヴィンクス、ニューヨーク・ロー・スクールのリチャード・シャーウィンら）。『Japan Forum』に論文を投稿し（今年度掲載予定）、またギリアン・ネメゲール氏（ハーバード大学イ・タッティ研究所）と共同で、政治リアリズムとイデオロギー・帝国に関する論集をケンブリッジ大学出版に提案しました。これら全ての出版物に國學院大學国際招聘研究員制度による研究成果である旨を記載いたします。2025 年 4 月 10 日には、土肥秀行教授の招きにより東京大学文学部イタリア語イタリア文学研究室で、近世ヨーロッパにおける自殺と自己決定権の法的・政治的・文化的発展についての講演をおこないました（國學院大學国際招聘研究員として登壇しました）。

最後に、この機会を与えてくださった國學院大學、特に研究協力者の岡本源太教授と、石山昭彦氏をはじめとした国際交流課のスタッフの方々に、心からの感謝を申し上げます。

フランチェスコ・カンパニョーラ